

木津川圏域河川整備計画検討委員会 第2回資料 (河川の現状)



玉川(山吹橋付近)

平成22年4月16日

京都府建設交通部河川課・山城北土木事務所・山城南土木事務所

目次

1. 河川の現状 1

2. 治水の現状

- 河川の整備状況 2
- 治水事業の経緯 3
- 近年の治水事業 4

3. その他

- 河川空間整備等 5
- 防災 6



1. 河川の現状

河川の現状

■圏域内河川は、木津川に流入する40河川2放水路と淀川に直接流入する大谷川水系の3河川2放水路の計47河川である。

■圏域内各ブロックの河川の特徴としては、以下が挙げられる。

- ① **木津川下流・中流右岸ブロック**では、市街地や宅地などの低平地を貫流する緩勾配河川が多く、木津川本川への排水不良による浸水被害が発生している。また、天井川を形成している河川が多い。
- ② **木津川中流左岸ブロック**では、関西文化学術研究都市を中心とした大規模な開発に伴う大幅な流出量増加に応じて、整備を進めた河川及び整備を進めている河川が多い。
- ③ **木津川上流ブロック**では、山間部を蛇行しながら流下する河川が多く、恵まれた自然を活かした観光資源として位置付けられる河川が多い。

①木津川下流・中流右岸ブロック

【市街地や宅地を貫流】



出典 京都府提供資料

【天井川を形成】



出典 京都府提供資料



③木津川上流ブロック

【山間部を蛇行しながら流下】



出典 京都府提供資料

②木津川中流左岸ブロック

【大規模開発に併せた整備を実施】



出典 京都府提供資料

2. 治水の現状（河川の整備状況）

河川の整備状況

■ 木津川圏域は、木津川下流・中流右岸ブロックや木津川中流左岸ブロックを中心に大規模開発地域やDID地区（人口集中地区¹⁾）が集中している。
 ■ 木津川圏域の河川整備率²⁾は、平成20年度末で64.8%であり、京都府全体の河川整備率34.8%に比べて高い値となっており、圏域内の河川整備は、京都府内でも進んでいるといえる。

※1)DID地区（人口集中地区）……人口密度が4,000人/km²以上の基本単位区等が市区町村の境界内で互いに隣接し、それらの隣接した地域の人口が5,000人以上を有する地域

※2)河川整備率……(整備済延長÷要改修延長(河川管理延長-改修不要延長))×100

出典 1)統計局HP 2)京都府

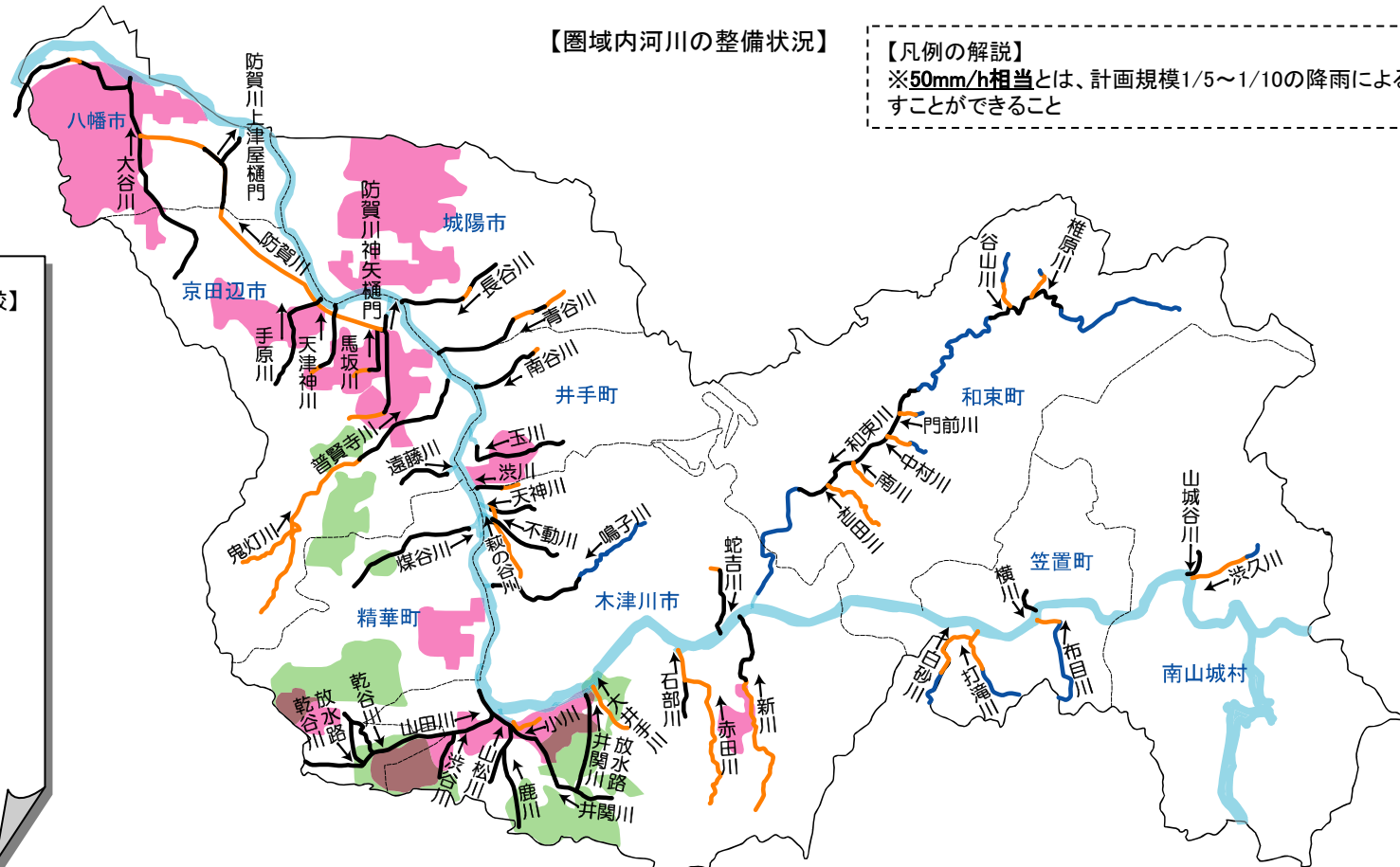
【凡例】

- 改修完了区間（概ね1時間50mm対応）
- 未改修区間（概ね1時間50mm未対応）
- 改修不要区間
- 関西文化学術研究都市
- DID地区

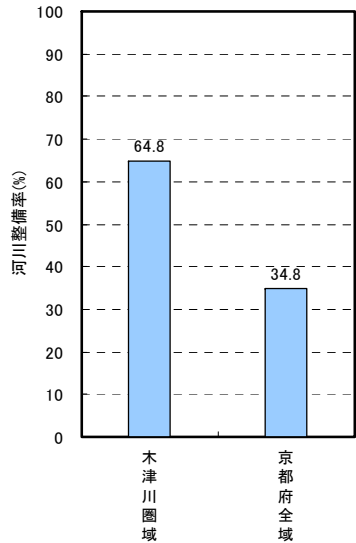
【圏域内河川の整備状況】

【凡例の解説】

※50mm/h相当とは、計画規模1/5～1/10の降雨による流量を流すことができること



【府全体の河川の整備率との比較】



出典 河川改修現況図 京都府

2. 治水の現状（治水事業の経緯）

治水事業の経緯

既往水害被害

- 昭和28年災害では、南山城地方の各地で河川の氾濫や天井川の堤防の決壊、土石流などによる甚大な被害が発生した。
- 昭和61年7月には、総雨量276mmの豪雨を記録し、大谷川が氾濫した。これにより、600戸余りの家屋が浸水し、広範囲に亘って田畑が冠水するなど甚大な被害が発生した。

大規模開発に伴う流出量増大

- 木津川中流部の左岸域を中心に、都市基盤整備や宅地開発が進む一方で、都市化に伴う保水力の低下により、雨水の流出量増加が懸念される。
- 関西文化学術研究都市は、京都、大阪、奈良の三府県にまたがり、産・学・官の協力と連携の下で、世界的な学術研究機関や国際的な交流拠点として、開発されてきた。

要
因

【天神川(昭和28年災害)】



出典 京都府の昭和28年水害

【不動川(昭和28年災害)】



出典 京都府の昭和28年水害

【八幡市の浸水被害(昭和61年7月)】



出典 京都府提供資料

【精華・西木津地区】



出典 京都府HP

【関西文化学術研究都市の位置】



出典 関西文化学術研究都市事業本部HP

- 昭和28年災害を契機に、和東川などでは、災害復旧工事により、護岸改修等が実施された。
- 大谷川では、河床掘削を中心とした河道改修を実施し、八幡樋門から一級起点まで事業が完了し、計画規模1/50年を満たしている。

- 山田川、井関川では、関西文化学術研究都市の整備に併せて、掘削や護岸整備、放水路等の整備を行い、計画規模1/100年を満たす河川改修が完了している。
- 煤谷川では、関西文化学術研究都市を中心に全体の約25%を開発地域が占め、下流部では市街地が形成されている。このため、早期の治水安全度向上を目指し、計画規模1/10年を目標に、下流への流出抑制を目的とした防災調節池を上流部に設置した。

治
水
事
業

【和東川】



出典 京都府HP

【大谷川】



出典 京都府提供資料

【山田川】



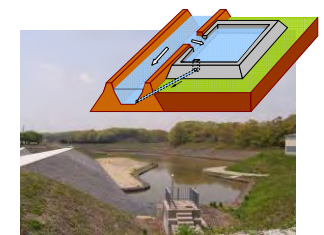
出典 京都府提供資料

【井関川放水路】



出典 京都府提供資料

【煤谷川防災調節池】



出典 京都府HP

2. 治水の現状（近年の治水事業）

近年の治水事業

防賀川（天井川切り下げ）

- 旧防賀川（現河川）は天井川を形成しており、ひとたび洪水が発生すると甚大な被害をもたらされることが懸念される。
- 昭和62年以降、天井川の切り下げに着手した。

【切り下げ前】



【切り下げ後】



出典 京都府HP

天神川（護岸補強）

- 昭和28年災害により甚大な被害を受けたため、災害復旧工事を実施した。
- 護岸の老朽化に伴い、出水時の漏水等の発生を未然に防ぐため、近年、護岸の補強を実施した。

【天神川護岸補強】



出典 パシフィックコンサルタンツ(株)

和束川（護岸補強）

- 改修後、50年以上が経過し、護岸の損傷や河床の深掘れが見られる。
- 災害の発生を未然に防止するため、平成17年度より、護岸の延命化を図るため、護岸補強工事を実施した。

【和束川護岸補強】



出典 京都府HP

煤谷川（近鉄橋架替、護岸改修）

- 早期の治水安全度向上を目指し、計画規模1/10年を目標に、防災調節池の設置に加え、近鉄橋付近では、橋梁の架替および下流左岸の護岸改修を実施した。

【近鉄橋架替】

【改修前】



【改修後】



出典 京都府HP

【近鉄橋下流左岸】

【改修前】



【改修後】

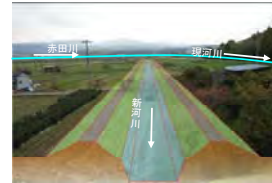


出典 京都府HP

赤田川（築堤、掘削、河川改修計画）

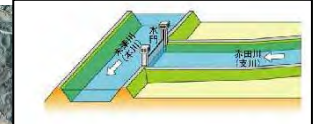
- 河道の流下能力不足によって、度々浸水被害に見舞われており、石部川合流点から京内橋までの区間において、築堤や河道掘削による暫定改修を実施した。
- 国土交通省が進める赤田川樋門改築計画事業と連携し、計画規模1/50年を目標に掘削、河道付替、引堤による河川改修を計画した。

改修イメージ



改修イメージの方向

【赤田川河川改修】



- ・合流点に赤田川樋門を設置し、木津川の背水が赤田川に及ぶのを遮断する。
- ・赤田川の堤防は、木津川と同規模の堤防とする必要はない。

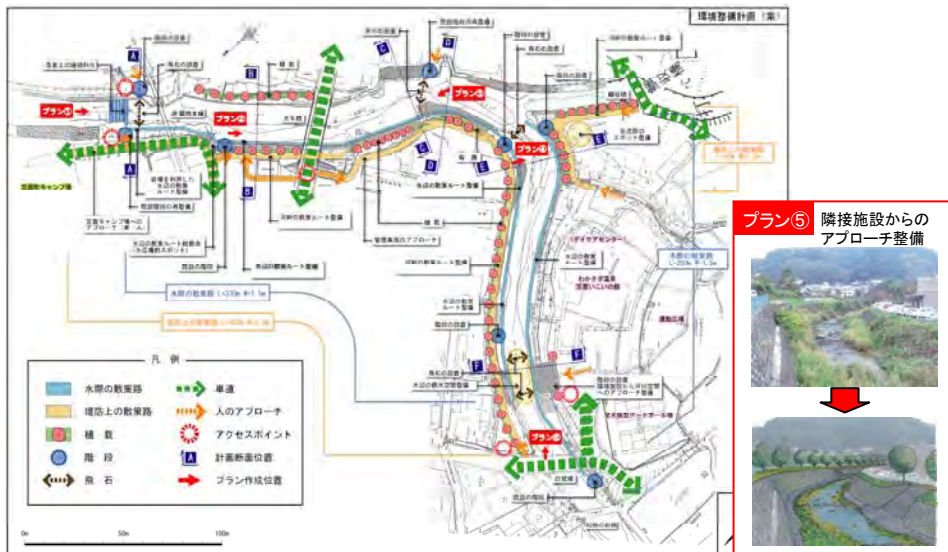
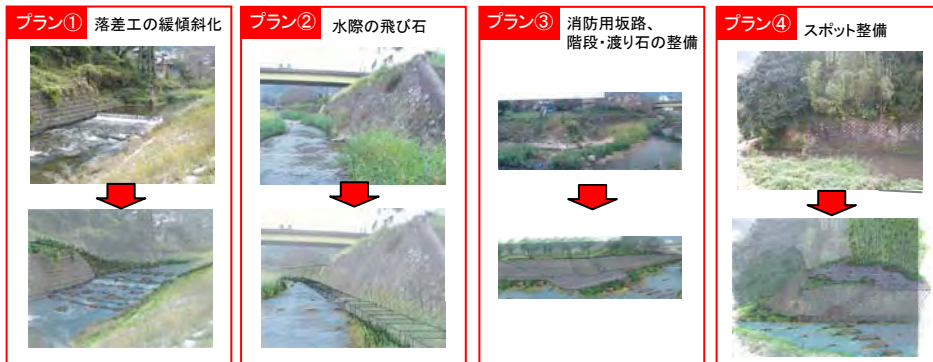
出典 京都府HP

3. その他（河川空間整備等）

河川空間整備の現状

- 山田川や井関川では、地域住民と共に今後の環境整備の内容を話し合う「出会いの水辺づくり」ワークショップを開催し、地域に愛される水辺づくりを目指して、遊歩道や親水空間の整備など地域住民のニーズを踏まえた環境整備計画を策定している。
- 白砂川においても、白砂川河川環境整備検討委員会を設置し、国が進める「水辺の楽校プロジェクト」と連携を図りつつ、地元の意見を踏まえた白砂川環境整備計画を策定している。
- 煤谷川では、護岸改修において環境保全型ブロックを用いることにより、現状の自然環境の保全と再生に配慮した構造としている。

【白砂川の環境整備計画(案)】



【白砂川環境整備検討委員会】

- 第1回(平成20年1月23日)では、白砂川の現状や整備イメージについて意見交換を行った。
- 第2回(平成20年3月26日)、第3回(平成20年7月18日)では、白砂川の環境整備計画(案)について意見交換を行った。

【環境整備計画の基本方針】

- ・木津川、観光資源と連携したネットワーク整備
- ・治水安全度の向上
- ・良好な環境を有する白砂川の積極的活用
- ・川らしさを活かした施設整備

【白砂川環境整備検討委員会風景】



出典 京都府HP

【環境に配慮した河川改修の紹介】

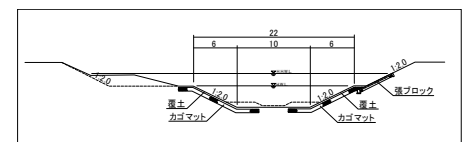
- 既設護岸では、カゴマット工法を用いることにより、植物が生育しやすい環境を作っている。また、河床は自然材料を用いることにより、生物が生息しやすい環境の保全を目指している。

【近鉄橋下流付近(煤谷川)】

(将来のイメージ)



【木津川合流点付近(煤谷川)】

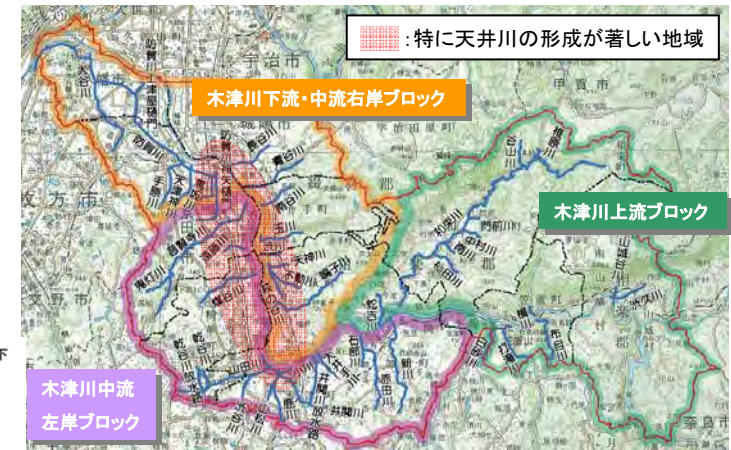


出典 京都府提供資料

3. その他（防災）

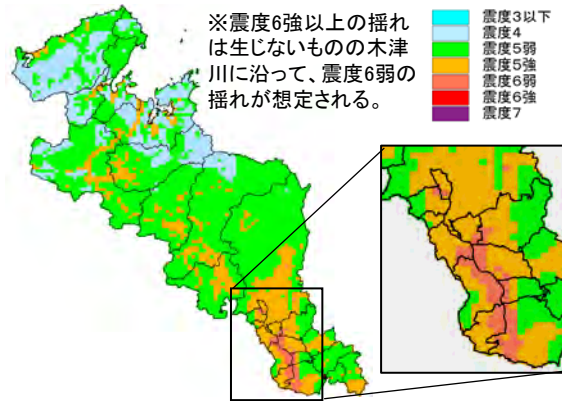
河川構造物の耐震化

- 京都府では、国の研究機関や大学、京都市などの地方自治体の調査・研究による地震・地盤に関する新たな知見を踏まえ、府域への影響が懸念される22の活断層による地震および南海・東南海地震について地震被害想定調査を実施している。
- 木津川圏域においては、関係する全ての市町村が、特別対策措置法に基づく防災対策推進地域※に指定された(H20.4)。
- また、地震調査研究推進本部の地震発生可能性の長期評価によると「奈良盆地東縁断層帯(M7.4程度)」の今後30年以内の地震発生確率は高いとされている。
- 圏域内には、築堤形状の河川が多く存在し、特に木津川河谷に沿っては天井川が多く形成され、国道やJRを横断する水路橋が多く見られる。



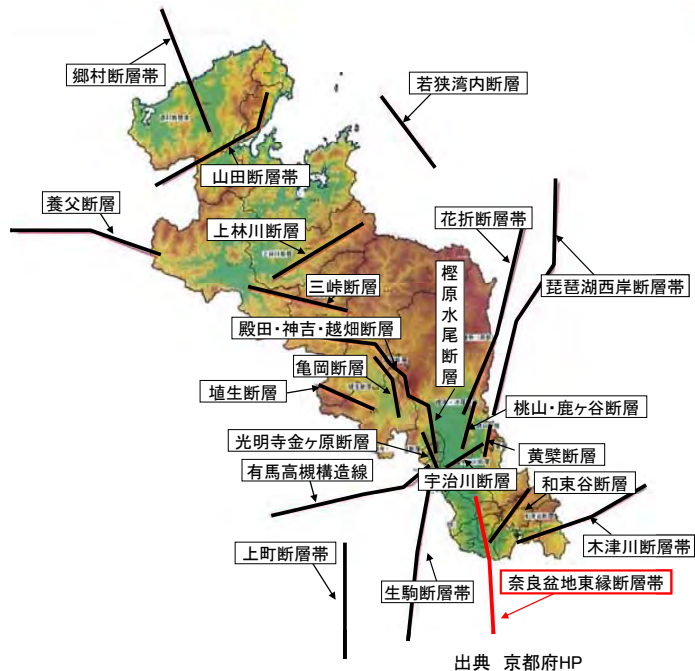
※防災対策推進地域・・・東南海・南海地震に前もって備えるために、防災施設の整備や津波からの避難計画の作成等、総合的な防災対策を推進すべき地域。「東南海・南海地震に係る地震防災対策の推進に関する特別対策措置法」に基づき指定。
出典 内閣府HP

【東南海・南海地震(M8.5)の想定震度】



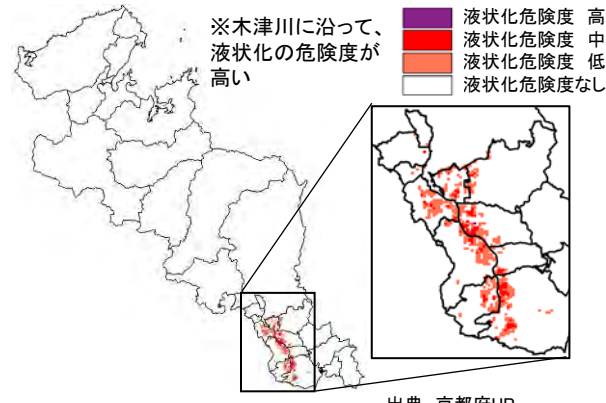
出典 京都府HP

【京都府域への影響が懸念される22の活断層】



出典 京都府HP

【東南海・南海地震(M8.5)の液状化危険度予測】



出典 京都府HP

【洪川(跨線橋)】



出典 京都府提供資料

【天神川(跨線橋)】



出典 京都府提供資料